

BLUE POWER MADE IN YAMAGATA

山形を育む
チカラと
次の世代へ。

「水」が育てるもの。[やまがた伝統野菜／甚五右エ門芋]

文化を運んだ川～母なる川・最上川～

水のある風景 山形市・山形五堰

水のチカラ～やまがたeでんき～

森を守り、水を守る。MOKULOCK（ニューテックシンセイ）

美味水成 水に誘われ、出会った山形の逸品

水のチカラ COLUMN



[水のチカラやまがた]

水

ノ

チカラ

山形の母なる川と呼ばれる、最上川。
一説によるとアイヌ語の「もがみ」静かなる神」に
その名の由来があるといわれている。

最上川によってもたらされた肥沃な大地と、
平安時代から重要な交通網として発達した舟運。
人々は川から水を引き、土地を耕し、
実り豊かな農業大国を作り上げた。

水のチカラと、それを活かす人の叡智が山形を作り上げた。
今、当たり前前にあるその豊かさを、
これからの未来へ繋げよう。
山形を育むチカラと、次の世代へ。

水に恵まれている長井市は、
市内の水道水も井戸水を使っ
ている。長井の治水のために
造られた長井ダムは27年の
歳月をかけて平成23年3月
に完成。東北有数の大規模な
重力式コンクリートダムだ。

「甚五右エ門芋は、この地域の水や大地だからこそ育つんです」



写真提供：志録康平



伝承野菜農家 森の家 最上郡真室川町大沢 2052-1 ☎ 0233-63-2651 <https://www.morinoie.com/>

もともとは20株ほどの自家用だったが、佐藤さんが少しずつ生産を増やし、今では36haで約3万株を育てる一大産地に成長させた。「この大地がくれた恵みを通じて真室川の風土も一緒に届け続けていきたいですね」。

「里芋は乾燥に弱いので、栽培には水が欠かせません。甚五右エ門芋を育てる真室川町小又地区の土壌は粘土質で、水分を豊富に蓄えることができます。この大地に降り注いだ恵みの雨や湧き出る清らかな水で、土壌が常に潤っているから、芋の皮が厚くならず、柔らかくておいしい里芋ができてくるんです」。

伝統野菜が多く残る真室川町で、佐藤春樹さんの家に室町時代から伝わる在来種の里芋だ。粘り気が強く、とても柔らかい食感が特徴の里芋「甚五右エ門芋」。芋煮が根付く山形県内にとどまらず、全国の料亭や高級ホテルなどから注文が入る。



「水」が育てるもの。

じんごえもんいも

【 やまがた伝統野菜・甚五右エ門芋 】

昔から大切に受け継がれてきた伝統野菜が数多く残る山形県。

その中の一つである「甚五右エ門芋」は、多くの人が一度食べるとそのおいしさに魅了される。



写真上／畑をトラクターで掘り上げた後、一株ずつ手作業で芋を取り出し収穫していく。写真下／おすすめの食べ方はシンプルな蒸し焼き。皮ごと食べられるそう。写真提供：志録康平



収穫期を迎えた甚五右エ門芋と佐藤さん。茎と葉の部分の背丈は、佐藤さんとほぼ同じくらいに。

山居倉庫

1893年(明治26年)に建てられた酒田米穀取引所の付属倉庫。白壁と土蔵づくりの12棟からなる倉庫が連なっている。西側には大きなケヤキが植えられ、高温防止となっている。

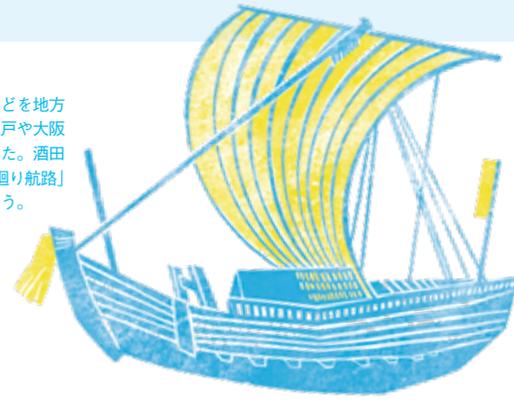


最上義光

出羽山形藩初代藩主・最上義光は舟運を整備し、商業も盛り上げた。

北前船

お米や魚、特産物などを地方の港で積み込み、江戸や大阪に向かって運んでいた。酒田から向かう船は「西廻り航路」を通り、上方へ向かう。



文化を運んだ川 ～母なる川・最上川～

母なる川・最上川は、山形に何をもたらしてきたのか。
山形の文化にどう関わっているのか。歴史を振り返ってみよう。



米沢から酒田まで流れ出る
総延長229kmの大河

「五月雨を集めて早し最上川」

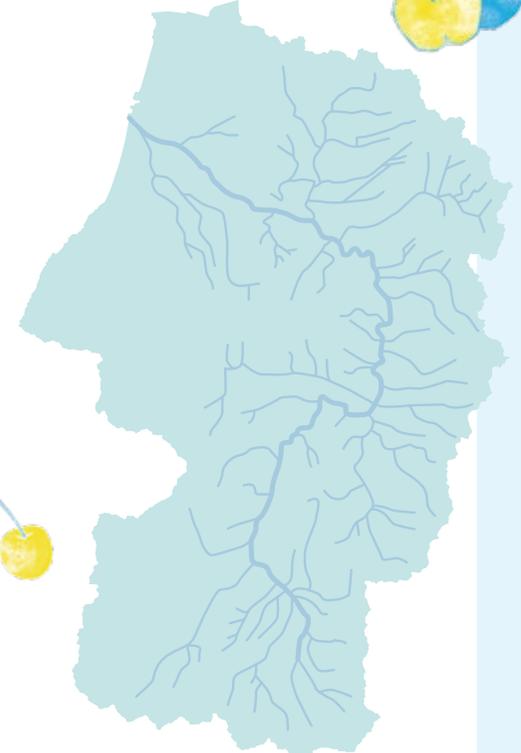
江戸前期の有名な俳人・松尾芭蕉が詠んだ句だ。もちろん、山形の母なる川・最上川のこと。熊本の球磨川、静岡の富士川とともに日本三大急流のひとつとされているが、実は最上川全体としてはゆるやかな流れが特長なのだ。なぜ、芭蕉は急流としての最上川を切り取ったのだろうか。

最上川は、山形県を南東から北西にかけて流れ、酒田で日本海へと流れ出る。総延長は229km、ひとつの県を流れる河川としては日本一の規模を誇る。もうひとつの特長は、そこに流れ込む支川の数だ。大小合わせて428の川が流れ込み、雄大な大河となっている。山形県の75%が流域であり、流域人口は県全体の約8割とされる。古今和歌集のなかで最上川が題材になっている歌があり、平安時代から物流・交通の大動脈として利用されていたことがわかっている。

た。近江商人と協力することで、上方との交易を成功に導いた。その結果、山形は町並みや建物、食文化などに上方の影響を残している。

最上川は盆地の後に峡谷、その後盆地を経てまた峡谷。ふたつの地形の組み合わせを幾度か通過するため、舟運においては難所がいくつか存在していた。そこで1580年、最上義光が山形市から酒田市までを開削。1693年には米沢藩の御用商人・西村久左衛門が黒滝の難所を開削し、米沢から左沢までの舟路を開き、最上川の舟運を確立した。

冒頭で紹介した芭蕉の句は、当初「く集めて涼し」という中句だった。しかし、実際に梅雨時期に最上川で川下りを体験し、あまりの激流に句を修正したと伝えられている。昔から自然は時に牙を剥くということだ。現代においても自然の猛威に脅かされることもあるが、今は川を流れる水の量をコントロールするためのインフラが整備されている。その代表的なものが、「ダム」だ。



最上川の舟運は産業を支え、
上方の文化を各地へ運んだ。

最上川を活用した舟運は重要な交通網だった。年貢米の運搬のほか、紅花や青芋などの商人が扱う特産品は、川を下り、酒田から上方へと運ばれた。山形に紅花を伝えたのは山寺(宝珠山立石寺)を建立した慈覚大師円仁であるという説がある。最上紅花は高い品質で全国にその名が知られ、江戸時代後期の最盛期には、全国の生産量の5割にも上った。また、出羽山形藩主・最上義光は上方との取引を盛んにするため近江商人を誘致し、城下町に店舗を構えさせ

水を貯めてコントロール
治水と利水を目的としたダム

前述したとおり、最上川の流域には、盆地と峡谷(狭窄部)が複数箇所存在している。狭窄部は水が流れにくくなるため、盆地で氾濫が起きる。盆地は人が多く住むだけでなく農地もある。洪水が発生すれば被害は大きい。実際、昭和42年と44年には集中豪雨による洪水で氾濫が発生、大きな被害が発生した。

ダムは治水(洪水が起きないように調整をする役割)を主な目的として建設されている。飯豊町にある白川ダム、西川町にある寒河江ダム、長井市にある長井ダムが最上川水系に造られた主要なダムだ。治水以外にも、灌漑用水や水道水の供給、発電などの役割を持っているほか、川の環境を保全する役割を担っている。工業用水を供給したりするものもある。

ダムの役割を考える機会は少ないだろう。しかし、実は川へ流す水の

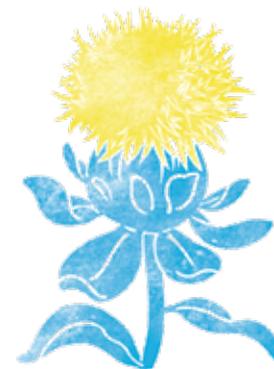
量を調整し、流域の人々の暮らしを守りながら、水を上手に活用するための役割を担っているのだ。

近年、世界的に突発的な大雨災害が多発している。今年7月には山形県でも豪雨被害が発生した。さまざまな想定を踏まえて造られたダムでも、その想定を上回る豪雨が起き、災害が発生する。その度に地球温暖化による影響を身近に感じる。

私たちが日々、自然に負荷を掛けずに暮らすことは正直難しい。だが、一人ひとりの心掛けが積み重なれば、自然への負荷は少しずつ減らせるのではないか。そのためのアクションを、今一度考えてみては。

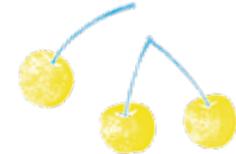


青芋



紅花

京都や大阪に運ばれたのは紅餅。紅花の花びらを摘み取り、発酵させたもので、赤の色素を高め、染料の原料として使われた。



▲ 428もの支川が最上川に流れ込む



長井ダム

水 ある 風景

400年前から
町を作り、産業を支える
5つの農業用水路
山形市／山形五堰



ベンチで休憩する人、友人と談笑する人、その脇を買い物を散歩で歩き来する人々……。山形市七日町二丁目を中心商店街に、昔ながらの石積み水路を活かした町づくりをしている場所がある。これは「山形五堰」のひとつ、御殿堰だ。

山形市を流れる農業用水路「山形五堰」は、約400年前に造られたインフラだ。江戸時代は農業用水だけでなく生活用水としても活用され、明治から昭和初期にかけて山形五堰は水車を利用した製粉業や精米業、養鱈・染物・鰻問屋などの産業にも活用された。人々の生活に密着し、山形市の景色と文化を作り上げてきた。

高度成長期に生活排水や工業排水が流れ込み、水質が急速に悪化し、利便性重視によって趣のある水路はコンクリート製に変わってしまった。しかし、近年では公共下水道の普及や市民の清掃活動によってきれいな流れを取り戻しつつある。親水機能や防火用水機能といった暮らしに関わる重要な役割を持ち、今なお山形市民に寄り添っている水路なのだ。



水ノチカラ

やまがたeでんき

山形で古くから利用されてきた水力発電は、CO₂を排出しない再生可能エネルギー。「水のチカラ～やまがたeでんき～」は、山形県企業局水力発電所由来の電気100%のプランです。

【水のチカラ～やまがたeでんき～の特徴】

1. 燃料費調整なし
2. 基本料金は東北電力の従量電灯Bの半額
3. 電力量料金単価は使用量によらず一定

$$\text{料金} = \text{基本料金} + \text{電力量料金} + \text{再エネ賦課金}$$

※本プランは、オール電化以外のお客さま向けプランです。オール電化のお客さまで、夜間の料金がお得なプランにご契約中の場合は、現在よりも料金が高くなる場合がございます。また、本プランは、燃料費調整がございません。燃料費等調整単価は毎月変動するため、燃料費調整を行うプランを現在ご契約中の場合は、燃料費等調整額によっては、現在よりも料金が高くなる場合がございますので、ご注意ください。※料金の詳細は、東北電力フロンティアのWebサイトをご確認ください。

プランについて

対象者／山形県内の一般家庭等のお客さま（低圧）

加入条件／・山形県内において、60アンペア以下で電気を使用されること
・料金のお支払い方法をクレジットカード払いとしていただくこと

※加入条件を満たす場合、企業等の法人のお客さまもご加入いただけます。

適用期間／2027年3月分まで

※適用期間を延長する場合には、新たな適用期間等について、あらかじめお知らせいたします。

電源構成／山形県企業局水力発電所由来の電気100%

やまがた移住・子育て割

山形県外から県内にお引越された方がいる世帯や子育て世帯を対象として、「水のチカラ～やまがたeでんき～」の**基本料金が6か月間無料**になるオプションです。

※お客さまのご契約開始・廃止の時期によっては、満6か月とならない場合がございます。

加入条件

・「水のチカラ～やまがたeでんき～」に加入され、次のいずれかを満たすこと

- (1) 過去2年以内に山形県外から県内にお引越された方がいる世帯
- (2) 18歳未満のお子さまがいる世帯

※上記(1)(2)両方の加入条件を満たす場合でも、「水のチカラ～やまがたeでんき～」の適用期間の2027年3月分までの間で、1需要場所における割引適用は、最大6か月間までといたします。

【お申込み方法】

申込期間／2026年9月30日まで

申込方法／東北電力フロンティアのWebサイトからお申込みください。

料金プランの詳細やお申込み方法は、

東北電力フロンティアのWebサイトをご確認ください。

https://www.tohoku-frontier.co.jp/plan/yamagata_e_denki/



先着
1,000件
まで!

子どもたちに
この地域の環境を
残したい

株式会社ニューテックシンセイ
代表取締役 栗原 晃 氏

INTERVIEW

森を守り、

水を守る。

米沢市はものづくりが盛んな地域。この地で地元の資源の大切さを見つめ直し、新たな分野のものづくりに挑戦した企業に出会った。

山 形県米沢市は、最上川の源である吾妻連峰の裾野が広がる米沢盆地にあり、かつて上杉氏が治めたことで知られている。約200年前に上杉鷹山が殖産振興のため奨励した米沢織物に端を発し、繊維工業が盛んになった。また第二次世界大戦の際、疎開企業が集積、工業再配置促進法の誘導地域となった経緯もあり、ものづくりが盛んな地域である。

株式会社ニューテックシンセイは1980年の創業以来、米沢で情報通信機器の精密部品製造を主な事業として行ってきた。代表取締役の栗原晃氏は、約15年前に訪れた転機について語る。

「当社は以前から大手情報通信機器メーカーの仕事を中心に受託していました。その企業が15年ほど前、中国の企業に買収され、危機感を抱きました。中国や東南アジアへ製造拠点が移されるようになっていて、自分たちもこのままではダメだと。そこで、新たな事業を作ろうという社内プロジェクトが立ち上がりました」。

抱きました。中国や東南アジアへ製造拠点が移されるようになっていて、自分たちもこのままではダメだと。そこで、新たな事業を作ろうという社内プロジェクトが立ち上がりました」。

新規事業を考える中で、問いかけが始まった。そもそも、なぜ自分たちは米沢でものづくりをしているのか。この場所にある意味合い、そしてこの地で続けていくためには何をすべきか。

「米沢には何があるかを考え、木にたどり着きました。盆地で山に囲まれていて森林が豊富じゃないかと。当時、私も担当していた社員も子どもが小さかった。木に触れることで、子どもの心が豊かに育つのではという思いがあった。自然に触れさせたい気持ちもあり、木製玩具を作ることになりました」。



くり、ぶな、さくら、して、かば、みずき、すぎ、ほおのき、かえで、けやきなど10種類の樹木の間伐材を使用。ピースがびったりはまるように乾燥の調整を行い、1/100mm単位まで厳密な切削を経て製造されている。従業員や地域の人とともに森林保全として植樹や下刈りなどを実施しており、使い終わったもくロックを山に戻す活動も行う。

栗原さんたちは、木製ブロックの開発へ着手。部品加工の技術を応用し、試作したところ、簡単に形を作ることができた。しかし、木は時間が経つと縮み、変形してしまう。山形県の工業技術センターからアドバイスをもらったり、山形大学の教授と共同研究を行うなど、数年かけて開発。2012年に「MOKULOCK」ブランドの立ち上げと、商品の発売に漕ぎ着けた。米沢で育つさまざまな樹種を使用しており、木肌の色が異なるブロックは木で造られたとは思えないほど、カチッとハマる。結果として玩具だけでなくインテリアとしての需要もあり、幅広い店舗で取り扱いが生まれた。コロナ前には海外の展不会にも参加し、40カ国ほどに流通。その魅力がポータルであることを証明した。

8年ほど前から山形県と協定を結び、「絆の森プロジェクト」に参加。森林保全活動に乗り出した。「米沢には最上川の源流があつて、この辺りがダメになったら川もダメになってしまうんだと考えるよ

うになりました。そのためにも、木を活用した事業だけでなく、木を生産する側にも携わりたい。林業は長いスパンで物事を捉えている、今植えた木は次の世代の人たちへの贈り物になる。長い目でものを捉えて、次の世代へこの環境を残していきたいと思えます」。

事業を通じて森を守り、水を守り、自分たちのいる環境を守る。次の世代に繋いでいくために。



株式会社ニューテックシンセイ

主に情報通信機器や半導体関連装置の受託生産、木製品の製造販売を行う。もくロックは2015年にメゾン・エ・オブジェ パリで「グリーン・アイテナリー賞」を受賞するなど、数々の賞を受賞した。

米沢市花沢 3075 番地 1 ☎ 0238-21-3155
<https://nt-shinsei.com/newtechshinsei>

水成 美味

水に誘われ、出会った山形の逸品

ピノ・コッリーナ
ファームガーデン&ワイナリー松ヶ岡

鶴岡甲州

山梨甲州とは違った魅力を持つ「鶴岡甲州」
酸がしっかり感じられる白ワイン。



斎藤麩屋

焼麩の煮物

シンプルな材料だからこそ、
超軟水の良さが生きる「焼麩」。



山形は全国でも最も麩の製造を行う事業者が多い。長井市で100年近い歴史を持つ斎藤麩屋もそのひとつである。4代目の斎藤大介さんは弟とともに山形とは異なる麩の文化を持つ金沢で修行。現在は父とともに3人で麩の製造を行う。金沢には山形と異なる生麩の文化があり、その経験も踏まえて2021年には直売所とカフェを開設。焼麩に加え、生麩も使った食事やスイーツを提供し、新たな麩文化を発信している。長井の水がおいしいから、長井の麩もおいしい。飽きのこない麩のおいしさ、ご賞味あれ。

斎藤麩屋 SHOP & CAFE 「麩和里」
長井市成田 1440
☎ 0238-88-2551 FAX 0238-88-2506
<https://www.saito-fuya.com/>



「この地域は砂礫の地質で、水はけが良い。金峯山からの伏流水でブドウを育てています」と語るのは、2020年に創業した「ピノ・コッリーナ松ヶ岡」のジェネラルマネージャーである川島旭さん。自社畑で多様な品種を育て、自然の力に逆らわないワイン造りを行っている。今回紹介する「鶴岡甲州」は、地元農家が育てたブドウを使用。西荒屋という場所で250年以上前に江戸の武家屋敷から移植された甲州は、長い時をかけて鶴岡らしさを身にまとい、豊かな香りと酸、ミネラルを感じられるワインだ。

ピノ・コッリーナ ファームガーデン&ワイナリー松ヶ岡
鶴岡市羽黒町松ヶ岡字松ヶ岡 156-2
☎ 0235-26-7807
<https://pinocollina.com/>

B L U E

P O W E R

BLUE POWER MADE IN YAMAGATA

M A D E I N

Y A M A G A T A



[水のチカラ COLUMN]

ながい百秋湖ボートツーリング 三淵渓谷通り抜け参拝

龍神伝説が残る溪谷
神秘的な雰囲気と
四季折々の自然が魅力



最上川リバーツーリズムネットワーク
長井市平山 2743-4
☎ 0238-87-0605
<https://manabikan.wixsite.com/boat>
※ボートツーリング開催は 4月下旬～11月中旬

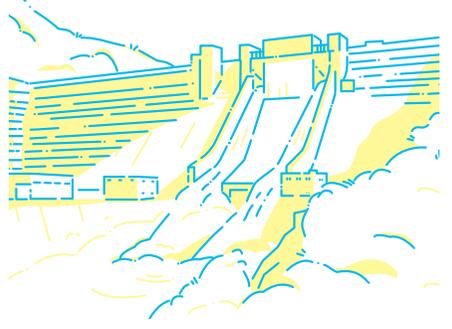
長 井ダムのダム湖「ながい百秋湖」の上流にある三淵渓谷。この渓谷をゴムボートで巡ることができるツアーが注目を集めています。

渓谷の上に神社があるため、ボートで通り抜けることが参拝になります。川幅が狭いことから、ボートからすぐそこに岩肌や木々が広がり、神秘的で迫力ある景色を楽しめます。

水辺空間の利活用推進のため、長井ダムではイベント開催が許可され、その一環として実施されています。ダム湖を巡る貴重な機会です。

HOW TO ENJOY THE DAM

「ダム見て何が楽しい??」
そんな初心者にも、ダムの見方を教えます。
ダムマニアによるダムコラム。



行 き交う車が次第に減っていく。いくと、突如巨大な建造物が現れる。私はこの瞬間が好きだ。自然の中にコンクリート製のバカでかい堤体がそびえ立っている様は、人間の生き抜こうとするパワーを感じる。どれだけの知力と労力を結集したのか、考えるとワクワクしてしまう。

ダムはひとつとして同じものはない。場所や必要な役割によって大きさも形も違っている。だからこそ、初対面のときはちょっと緊張する。どんな出会いが待っているんだろうやまの・だもじ

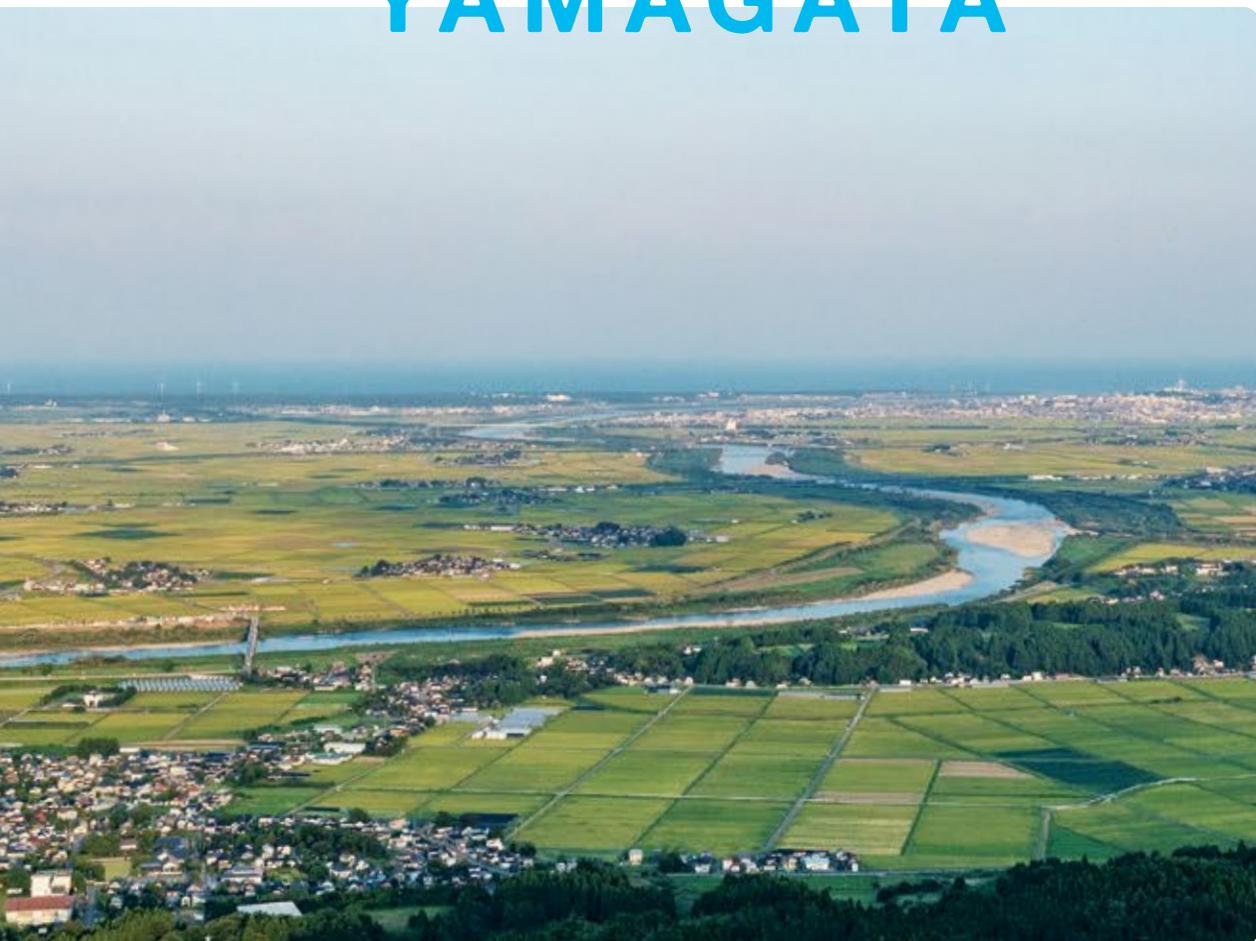
と、期待と不安が入り交じる。それも楽しい。

ちなみに年に一度、一般公開イベントを開催するダムもある。そういうときは観光放流が実施されたり、普段入れないエリアを見学できたり、湖水巡視船に乗船できたりと貴重な体験ができる場合も。また、ダム管理事務所で配布しているダムカードも人気でコレクターも多い。

いろいろな楽しみ方があるのがダムの魅力。温泉へ行く途中にでも、ふらりとダムに立ち寄ってみては。アナタもダムの魅力にハマるかも。

巨大な堤体ほど興奮するダムマニア女子。ついでに大倉の水が流れている様子を見るのも大好き。

BLUE POWER MADE IN YAMAGATA



[水のチカラやまがた]

制作・著作



2024年11月発行

[水のチカラ]

特設サイトはこちら

